

最近、よく聞くけれど

エスディーゼーズ

SDGs ってなに? ということで勉強会をします

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (持続可能な開発目標) を知っている人も、知らない人も気軽に勉強会に参加してみませんか? まずはSDGsの事を知ることからはじめましょう!

日時 2020年5月9日(土)
14:00~15:30
場所 紫波町情報交流館(オガールプラザ)
大スタジオ
定員 50名
参加費 無料
講師 丸尾 美由紀 さん他
(環境学習交流センタースタッフ)

お問い合わせ・お申し込み先
NPO法人紫波みらい研究所
TEL:019-671-2244
FAX:019-671-2243
mail:miraiken@shiwa-mirai.com

- SDGs ってなに?
- 持続可能な開発?
- 未来って本当に変えられる?
- 私たちの暮らしに
どう関係しているの?
- 何をすればいいの?



めぐりっと紫波は、紫波町産業部環境課の委託で発行しています。

— ひとと時代をつなぐ —

めぐりっと紫波

[Vol.52] 3月号
令和2年3月25日
発行者 NPO法人紫波みらい研究所
TEL019-671-2244 FAX019-671-2243
E-mail miraiken@shiwa-mirai.com

第6回

「20年目の新たな挑戦」

境か?福祉か?産業か?”ではなく、SDGsの理念に沿って、“環境も福祉も産業も”見据えたまちづくりを10年後までに具体化し100年後の子どもたちに残し伝えてみてはどうでしょうか。

これまでこの連載で取り上げてきた活動の根底には、常に人と自然との調和があり、相手に対するやさしさ、思いやりがありました。そうだとするならば、これからはそのやさしさや思いやりを、環境だけではなくSDGsの17の目標すべてについて、“こころ”ある行動を起こしてみてもどうでしょうか。

安全安心の農産物を作る農家、川を汚さない石けんを販売するお店があります。そしてこれからさらに、みんながなるべく町内で買い物ができるよう欲しいものをお店に提案できるようなコミュニティづくり。クマを交通事故から守ろうとして平成の森を作った子どもたち。次はそのようなやさしい子どもたちを育てるための令和の森づくり。そして、わざわざ洗浄作業をしなくてもよいきれいなキャップ、ペットボトルが回収されるようなマナーづくり、...

これまで19年もの間、やってこられたのですから、もう一度初心にかえって、これからは環境のための保全活動ではなく、人として、こころある17の目標活動を10年間やってみてはどうでしょうか。そうすればきっと、100年後の子どもたちによりよい姿で紫波町の環境も残し伝えていけるはずですよ。

地域パートナーシップ支援センター
小野紀之(日誌在住)

今年、紫波町は「新世紀未来宣言」から20年目を迎えます。つまり目標の100年のうちの1/5を経過したわけです。

“紫波の環境を百年後の子どもたちによりよい姿で残し伝えて”いくために、紫波町は循環型まちづくりの実現を目標に、有機資源循環、森林資源循環、そして環境学習の推進など環境政策を次々打ち出し、実行してきました。

しかし、その後の環境を取り巻く国際社会の変化は激しく(地球温暖化やそれに伴うと思われる自然災害なども深刻さを増しています)、環境面からだけでは解決できないこともようやく理解されるようになりました。そのような状況の中、2015年9月に国連サミットにおいて「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals (SDGs)」が採択されました。SDGs(エスディーゼーズ)は、これまでの環境一辺倒の考えから経済、社会への展開を図り、その達成目標を2030年と決めました。そこに掲げられた目標には、気候変動や海、陸の豊かさを守る環境目標や貧困、飢餓、健康に関する福祉目標、産業基盤づくり、経済成長、まちづくりなど経済・社会に関するものなど17の目標があります。

紫波町も「新世紀未来宣言」20周年の今年、100年後のための新たなスタートとして、“環

めぐりっと紫波では2020年の“新世紀未来宣言”20周年を前にして、町が取り組んできた「循環型まちづくり」を確認し、さらにこれからの課題について6回シリーズで掲載しております。

紫波町の循環型まちづくりの取り組みをSDGsの目標にあわせてみました。

有機資源循環

完熟たい肥の活用

安心・安全な農産物の生産

地産地消の推進



産直施設



ラ・フランス温泉館

廃熱回収ヒートポンプ

太陽熱温水器

木質チップボイラー

太陽光発電



再生可能エネルギー・木質バイオマスエネルギー施設



エネルギーステーション
(木質チップボイラーによる地域熱供給施設)



「新世紀未来宣言」

日本文化の源流は農村の山ひだにありました。森の中から水が湧き、人々は集い、集落を形成し、自然と共存し、自然を崇拜してきました。

厳しい自然に耐えた集落には、先人の知恵の結晶ともいえるべき生きるための哲学があり、連鎖と伝えられてきました。

モノを粗末にすることは、すなわち生命(いのち)を粗末にすることになります。モノを大切にすることは、生命を育むこと、郷土の文化と伝統を伝えていくことを、百年後にも引きついでいきます。

母が見た風景を、浴びた陽の光を、感じた風を、清冽な水を、そして紫波の環境を百年後の子どもたちによりよい姿で残し伝えていきます。

平成12年6月2日 発表

新世紀未来宣言 (6月号)



水生生物観察



わかしお石けん
(11月号)



森林資源循環

森林づくりの推進

森林資源の有効活用
建築用資材の利用
木質バイオマスの活用



企業の森づくり活動



間伐材を運び隊の活動



木造公共施設 (9月号)



平成の森の植樹 (12月号)



無機資源循環

3R運動
集団資源回収の推進
マイバック運動
ごみ分別の徹底



ペットボトルキャップ回収の取り組み (2月号)



資源リサイクル施設



() 内は今年度のめぐりと紫波掲載月